

市の人口と予算 (6月1日現在)

人口・世帯()内は前月比/前年同月比

合計 = 173,592人 (+120/+2,649)
男 = 86,247人 (+82/+1,315)
女 = 87,345人 (+38/+1,334)
世帯 = 71,378世帯 (+110/+1,712)

予算

一般会計 = 550億4,100万円
特別・企業会計 = 447億4,715万9千円

もっと便利に、もっと元気に！ 安心の介護保険制度を運営します

特集：介護保険制度の改正

近年の急速な高齢化に伴い、高齢者のひとり暮らしや夫婦のみの世帯、認知症高齢者の増加が予測され、これまで以上に社会全体で高齢者を支援していく必要があります。市では、平成27年度の介護保険制度改正を受けて、より質の高いサービスを提供できるよう取り組んでいます。

今号では、医療・介護の連携推進、地域での支え合いの仕組みづくりや介護予防の充実、安定した介護サービスを図るための施設整備、保険料の改定、急がれる認知症高齢者への支援の推進についてお知らせします。

図介護支援課 ☎7150-6531 FAX 7159-5055

◆ 医療・介護の連携で在宅介護を支援 ◆

最期までこの家で過ごさせたい

介護者のふみ子さん (若葉台在住)

母が平成18年にパーキンソン病と診断されました。その2年後に訪問看護、さらに4年後には訪問診療のサービスを利用し始め、現在は24時間緊急対応が可能な訪問看護のお世話になっています。訪問看護ステーションやお医者さんと、24時間連絡がつくのはとても安心です。

他人が家に入ることに對して、不安や迷いはありましたが、以前は仕事をしていたため、外部の力を借りることに決めました。実際に来ていただき、いろいろアドバイスを受けながら、自分一人で抱え込まずに済むと思え、気持ちが楽になりました。何より、母は人に会うことが好きで、寝たきり状態になっても、皆さんが来る日にはにっこりするんです。着ている洋服をほめられて、笑顔で反応するなど刺激になっているのがよいと思います。

家で世話をしたい、最期までこの家で過ごさせたい。さまざまなサービスを利用し、皆さんに支えられることで、それは実現できそうです。

母・保子さん

ふみ子さんと2人暮らし。保子さんは昨年、PTEG(管を挿入し直接胃や腸に栄養を送る手術)を受けている。



世間話のその中から

約8年間、保子さんの担当をさせていただいています。月1回の訪問では、世間話をしながら、ふみ子さんの気持ちを聞いたり、保子さんのご様子やヘルパーの派遣回数や曜日の変更など、介護サービスの調整を行っています。ふみ子さんが一生懸命に介護されているので、わたしたちもそれに応えたい。訪問診療の医師、居宅指導の薬剤師、2カ所の訪問看護ステーション、ヘルパーと連携して、一つのチームのような形がかかっています。



加藤 ゆき子さん

流山市社会福祉協議会、居宅介護支援事業所の主任介護支援専門員

介護者

互いに連携して ご本人を チームで支えます

～チームの一員に
インタビューしました～

訪問看護師

この仕事は信頼関係が一番大事

週1回ご自宅に伺って、血圧や脈を測ったり、胸の音を聞いて健康チェックを行います。保子さんの場合は、寝たきりになってしまい、腸の動きも悪いので、排せつの介助もさせていただいています。この仕事は信頼関係が一番大事です。少しずつ、丁寧にかかわっていくよう心掛けています。



高橋 千江美さん

流山市訪問看護ステーション看護師

訪問診療で患者さんをサポート

訪問診療では、ご家族の目から見た患者さんの様子を教えていただき、診察をします。医師でなくては気付かないことがあるので、声掛けをして患者さんの顔をみます。最近、保子さんがしたいことは「食べる」こと。コミュニケーションの中から、彼女の望むことや困っていると感じ、サポートできればいいですね。また、ご家族には負担がかかっていないかお話を聞くなど、御用聞きのような役割が大切だと思っています。



伊藤 保彦さん

24時間対応の在宅療養支援診療所「すずき内科クリニック」勤務。院長ほか3人体制で市内の訪問診療を行っている。

●インターネットを利用した情報連携

介護を要する方を支援する側の職種間の円滑な連携を進めるため、インターネットを利用した情報連携システムを導入しました。個人情報強化に保護しつつ、ご本人の病状や、心身の状況変化について情報を共有し、より総合的に支えることが可能となります。

●医療と介護の連携推進の取り組み

介護を要する方の支援の仕組みの中でも、介護と医療が連携した支援サービスが、その要となります。市では医師やケアマネジャーなど、医療と介護関係者が集う会議や研修を行うなど、連携推進の取り組みを行っています。

認知症高齢者は全国で約462万人。誰にとっても身近な問題です

インタビュー

認知症という病気を理解し、支え合いのための積極的な働きかけを 向小金クリニック院長 大津 直之さん

認知症が、がんなどの病気と違うのは、「個人だけの病気にとどまらない」ということです。個人の病気であれば本人だけを治療すればよい。しかし、認知症という病気は必ず家族を巻き込み、さまざまなトラブルを引き起こしてしまふ。そしてもう一つの大きな特徴は、現代の医療で治る病気ではない。そこをまず、地域社会全体が理解し合わなければならないと思います。

では、わたしたちは認知症に対して、どうかかわっていくか。認知症という病気を考えると、住み慣れた家をもっとも穏やかに過ごせる場所です。愛着のある家で、その人がその人らしく暮らしていけるように、地域で支えていくことが必要です。ご家族の方には「寛容と忍耐が基本」とお話ししますが、地域も同じです。認

知症の方を特別視することなく、受け入れていく、排除しない。同じ地域住民として、一緒に住もうという積極的な働きかけをする。実際に市内の住宅街では、見守りをする、ごみ出しを手伝うなど、住民同士の支え合いの仕組みが進んでいる地域が出てきています。

認知症は誰でもなる可能性のある病気です。自分になったとき、あるいは親しい人になったとき、どうしますか？ 家族だけが背負うのではなく、地域に託せるようなまちをつくっていかねばならない。それは認知症が、当事者だけの病気として解決することのできない病気だからです。「認知症になりました、よろしく」と、あいさつできるような地域が理想ですね。



認知症になっても、周囲の理解やちょっとした気づかい、地域の中での支え合いがあれば、その人らしく住み慣れた地域で暮らしつづけることができます。市では、下記の3つの柱を中心にしたさまざまな施策に取り組んでいます。

1 認知症を正しく理解し、対応できる人を増やし育てていきます

認知症への正しい理解が進むよう、認知症の知識を伝えたり、支える人を増やすため、認知症サポーター養成講座を開催しています。また、地域の方からのご要望に応じた認知症サポーター養成講座の開催も随時行っています。お気軽に高齢者なんでも相談室（地域包括支援センター）へお問い合わせください。

【認知症サポーター養成講座予定】

| 日時 | 場所 | 定員(先着順) | 申し込み方法 | 電話番号 |
|------------------------|----------|---------|-----------------------|------------|
| 6月21日(木) 10時～11時30分 | 江戸川台福祉会館 | 30人 | 北部高齢者なんでも相談室へ電話 | ☎7155-5366 |
| 7月25日(土) 10時～11時30分 | 初石公民館 | 100人 | 中部高齢者なんでも相談室へ電話 | ☎7150-2953 |
| 9月12日(土) 14時～15時30分 | 東部公民館 | 40人 | 7月1日から東部高齢者なんでも相談室へ電話 | ☎7148-5665 |

※対象は市内在住・在勤・在学の方。参加費無料。

2 認知症の方の権利を守る相談体制を整えます

認知症の方の財産や権利を守る体制を、身近な地域の中で実現していきます。

【相談体制の充実】

高齢者なんでも相談室に、認知症地域支援推進員を配置しました。医療機関や地域の支援機関との連携を図り、認知症の方やその家族を幅広く支えていきます。

【成年後見制度の利用促進】

認知症が進行すると、悪徳商法に騙されたり、振り込め詐欺の被害に遭いやすくなったり…。そこで、後見人が本人に代わって財産の管理・保護をして暮らしの安心を保つ「成年後見制度」の利用を呼び掛けています。

高齢者なんでも相談室（地域包括支援センター）

高齢者なんでも相談室は、市内に4カ所（北部、中部、東部、南部）あります。地域で暮らす高齢者の方を介護、福祉、保健、医療など、さまざまな面から総合的に支えるための機関です。認知症に関する相談も受け付けています。

お気軽にご相談ください！

| | 問い合わせ | 所在地 | 担当地域 |
|----|-----------------------------|------------------------------|---|
| 北部 | ☎7155-5366 FAX 7154-3207 | 江戸川台東2-19 | 富士見台、小屋、南、北、中野久木、平方、平方村新田、美原1～4丁目、江戸川台東1～4丁目、江戸川台西1～4丁目、東深井、西深井、こうのす台、深井新田、西初石1丁目（73番地を除く）、上新宿新田35～98番地 |
| 中部 | ☎7150-2953 FAX 7158-8419 | 下花輪409 東葛病院内 | 東初石1～6丁目、青田、駒木、駒木台、十太夫、美田、若葉台、桐ヶ谷、谷、下花輪、上貝塚、大群、上新宿、上新宿新田27～34番地、西初石1丁目73番地、西初石2～6丁目 |
| 東部 | ☎7148-5665 FAX 7141-2280 | 野々下2-488-5 特別養護老人ホームあざみ苑内 | 西松ヶ丘1丁目、松ヶ丘1～6丁目、向小金1～4丁目、前ヶ崎、名都借、宮園1～3丁目、思井、中、芝崎、古間木、前平井、後平井、野々下1～6丁目、長崎1～2丁目 |
| 南部 | ☎7159-9981 FAX 7178-8555 | 平和台2-1-2 ケアセンター2階 | 大字三輪野山、三輪野山1～5丁目、大字流山、流山1～9丁目、加、加1～6丁目、市野谷、平和台1～5丁目、大字鱒ヶ崎、鱒ヶ崎、木、南流山1～8丁目、西平井 |

3 認知症の方を介護する家族の集いの場を増やします

介護者が悩みを抱え込まないよう、介護者同士が集える場、相談できる場づくりを支援します。

●オレンジカフェ

認知症の方とその家族、地域の方、専門職の方などが気軽に集える場所です。現在は生活クラブ風の村流山「から風流」（東深井）で毎月22日に行っています。

●認知症を抱える家族の会「コスモスの会」（隔月開催）

認知症の方を介護する家族が集い、日ごろ抱える介護の悩みや不安などを「認知症の人と家族の会千葉県支部」の方、高齢者なんでも相談室の職員などを交えて話します。同じ立場だからこそ共感でき、不安や戸惑いが軽くなることもあります。「一人じゃない」「仲間がいる」、ほっとひと息つきませんか。次回は、7月10日(金)（10時～11時30分）に初石公民館で開催します。

☎介護支援課☎7150-6531 FAX 7159-5055

井崎市長からのメッセージ

安心して暮らせる流山市
認知症になっても



流山市長 井崎 義治

わたしの父は認知症で、介護保険サービスを利用しています。父が認知症と疑われる行動をするようになったところは戸惑いがありました。父も周囲に理解されない自分不安や、いら立ちを感じたようでした。しかし、信頼する方たちから適切な助言をいただき、親戚、家族でその事実を受け止め、どのように対応するべきかを学び、今は、ありのままの父と接しています。父にとっても、父の介護をしている母にとっても、最も重要な点は「周囲に認知症を理解してくれる人がどれだけ多くいるか」だと思います。

認知症は高齢になると誰もがなり得るものです。わたしも、あなたもです。だからこそ、相談したり、支えられる地域社会づくりが重要です。

流山市は、認知症施策にも力を入れていきます。皆様と一緒に「認知症になっても安心して暮らせる流山市」を創ってまいります。